

高松高校で、本県在住の ウクライナの方を招いて 国際平和座談会を行います

令和6年11月21日（木）
香川県立高松高等学校
担当：三崎（当日の取材、
内容に関すること）
電話：087-831-7251

- 1 日 程：令和6年12月3日（火）13：30～
- 2 場 所：高松高校2階 AV教室
- 3 内 容：本校の「人道プログラム」活動の一環として、ウクライナ出身で現在は香川県在住のアゲヴァ・オリガさんをお招きし、今のウクライナの現状、またウクライナの人から見た「国際平和」についてご意見を聞き、自分たちの今と今後を見つめる機会とする。
- 4 参加者：高松高校生（希望者14名）

高松高校の「人道プログラム」

本校では、一般財団法人三菱みらい育成財団による「心のエンジンを駆動させるプログラム」、県教委の「コネクティングスクール（グローバル部門）事業」、公益財団法人日本教育公務員弘済会等の助成を受け、「杉原千畝・幸子氏から広がる人道の輪～高校生同士の交流が世界へと繋がる」のテーマのもと、イスラエルやリトアニア大使館表敬訪問や愛知県知事、神戸・沼津市長表敬訪問、杉原千畝記念館（岐阜県）、人道の港敦賀ミュージアム等を実際に訪れて学びを広げる研修などを、一昨年度から3年間の期間で実施しており、今年度は最終年度として、代表生徒5名が実際にリトアニア・ポーランドでの現地研修を行いました。

第二次世界大戦中、自分の命の危険を顧みず、ユダヤ難民に対して「命のビザ」を発行した杉原千畝外交官の妻幸子（ゆきこ）氏は本校の卒業生であり、昨年度生誕110周年を迎えました。ビザ発行の勇気ある行動の影には妻幸子氏の献身的な支えがあったと言われています。

この機会を捉えるとともに、ウクライナやイスラエルで戦争が行われている今、高校生が平和な国際社会の創出に向けて意見交換し、多くの学びを共有し、またその輪を広げ日本国内から世界へと繋げていきたいと考えています。

またユダヤ難民に手を差しのべた杉原夫妻の活動に感化され、「杉原幸子ウクライナ難民募金」の活動を行ってきました。11月21日に、本校にリトアニア大使を招き、直接募金を手渡しました。ウクライナでの戦争が始まってから2年以上経ちますが、未だ戦争が終わる気配はありません。ロシアの侵攻後、多くのウクライナ人がリトアニアにも難民として渡り、今なおリトアニア国内で生活しています。彼らに対する支援疲れが起こっている中で杉原夫妻の行動に立ち返り、少しでも役に立てればと行ってきた募金活動です。